

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホーム ワカバまつど 2F		
所在地	千葉県松戸市胡録台284-51		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

思いやりといったわりの心で接することを大切に、ご入居者様の声に耳を傾け、良いと思ったことは積極的に取り入れるようにしています。またスタッフの「笑顔を大切に」という理念のもと、笑顔で接することで皆様も自然と笑顔になれるように努めております。ご入居者様の「出来ないこと」を探して支援するのではなく、その方の「出来ること」に着目し、いつまでも続けていけるように支援しています。一人ひとりの生活リズムを尊重し、その方のペースで生活できるように時間で区切らないように努めています。食事は配食サービスを利用しており、市場やメーカーから仕入れられた安全で鮮度の良い食材が毎日届きます。また、栄養士がメニューを考えているので、栄養バランスの摂れた食事を提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念、サービス提供指針を玄関や事務所に掲示し、誰もがいつでも見ることの出来るように共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや定期的に運営推進会議を開催し、外部施設の職員を交え活動報告を行っている。また、他施設の運営推進会議にも参加し交流している(コロナ禍のため現在は来ていない)。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページのブログにて、定期的に施設の活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会では、質疑応答の時間を設け様々な意見を頂戴したり、地域の抱える課題なども話し合いサービスの向上に繋げている(コロナ禍のため現在は書面をご家族様や事業所に送り、意見を頂き、施設で検討している)。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当部署へ積極的に足を運び顔なじみとなることで、ささいなことでも気軽に相談が出来る関係性を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の観点からフロア出入口と玄関の施錠を行っている。また、身体拘束をしていないか、または、やむを得ず拘束をしている場合は、どのようにすれば廃止につながるかを会議で検討したり個別に話しかけ意見を聞いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、研修をしている。職員間で言葉遣いを注意したり言葉による抑制をしないように注意している。また、職員がストレスから虐待に発展しないように、他職員と協力して介助を行うようにしたり、極力4日以上連続勤務にならないようシフトを調整している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度を理解し、必要に応じてご家族様からの相談に対応したり情報提供を行うなどをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを必ず行い、入居者様やご家族様に専門用語を使わず分かりやすい言葉で説明し、契約内容を正しく理解して頂けるように努め、不安や疑問点などをお伺いし、ご理解して頂けるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時には積極的に意見や要望を伺い、介護相談員の訪問時にも積極的に意見や感想の聞き取りを行い、良いものは積極的に取り入れるように努めている(コロナ禍のため現在面会などは中断中)。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談やスタッフミーティングの他、日々各スタッフと話すことを心掛け、話しやすい雰囲気作りをして気軽に意見や要望を話してもらえるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた基本時給の他、日勤手当・資格手当・経験年数に応じた手当支給や、保育支援制度、キャリアアップ支援制度などを設けて、職員が働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、月1回の責任者ミーティングの他、不定期ではあるがホームに来所し職員と話をしよう努めている。新規採用者は、研修期間を設けて面談や力量評価を行いながら育成している。担当職員が教えることで、自身の振り返りにもつながりお互いのスキルアップにもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に入会し、管理者は定例会へ積極的に参加をし他施設職員と交流を図っている。また、他施設の運営推進会議にも参加し交流をしている(コロナ禍のため現在は中断中)。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、声掛け・挨拶・会話を心掛け入居者様の思いや心配事などに耳を傾け、スタッフ全員で共有出来るように申し送りや連絡ノートに記録し目を通すことで、より良いサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所されたときや電話のあったときはお話を良く聞き、不安に思っていることや要望を聞き、応えられる範囲でお答えをし、それを全スタッフが把握することで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話を重視し、ご本人・ご家族の望む支援を見極めて、ご本人にとって最適なサービスをその都度提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、それぞれの入居者様の体調や様子を見ながら、その時に出来ること(掃除・食器拭き・洗濯物たたみなど)をお手伝いして頂いている。また、TVや新聞でのニュース・スポーツ・季節の話題などをして会話を楽しむように常に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所されたときや電話のあったときに普段の様子や健康状態をお伝えし、電話に出られる方であれば声を聞いて頂いている。また、月に1度、介護連絡票で前月の様子をお伝えし写真と共に郵送している。行事の案内もお出しし参加してもらうことで、一緒に支えていけるような関係を築けるよう努めている(コロナ禍のため現在は出来ない)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでおられた家のご近所の方や、知人・友人などからの電話や手紙などを楽しみにしておられるので、取り次ぎがスムーズにできるよう努めている。また、ご来所時には居室でゆっくり過ごして頂けるように配慮している(コロナ禍のため現在は出来ない)。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、入居者様それぞれの性格を把握して孤立しないように皆様に声掛けするように努めている。また、それぞれの相性や行動範囲を考慮しながら座席を決め、各自が自然と周囲の方と関わられるように配慮している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご要望に応じて相談やサービス紹介などを行い支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人やご家族の意向を聞くとともに、日々の表情や仕草からの把握に努めている。また、言葉に出来ず意思表示の難しい場合でも、その時の表情やそぶりなどからお気持ちを汲み取るように努め、入居者様の気持ちを大切に、その人らしい生活が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のケアマネからのアセスメントや、ご家族から頂いた情報などを収集したり、入居後も生活の中でふと漏らす言葉を収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を細やかに観察し生活パターンやご本人の出来ることの把握に努めている。それらの情報を連絡ノートや申し送りで共有し、全スタッフで現状を正しく把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を観察し共有することで生活パターンや出来ることの把握に努めている。それらの情報を連絡ノートや申し送りで共有し、全スタッフから情報を収集し、本人の気持ち・意向に沿った個性の出る介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、往診ファイル、受診ノートなど様々な記録と申し送りで情報共有をしている。また、現場スタッフの気づきをこまかに吸い上げることで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに沿ったサービスの提供をしている中で、新たに生活に対して希望があった場合は臨機応変に対応するように心掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーやコンビニ、外食に出かけるなどを実施し個々のニーズに合わせた支援を行っている(コロナ禍のため現在は中断中)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関で対応できない受診や検査が必要になった場合には施設職員が同行し受診している。また、ご家族から受診先の希望がある場合はご希望に沿えるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護の他、看護師とは随時連絡が取れるようになっている。小さな変化でも報告するようにしており看護師とは相談しやすい関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスムーズに必要な医療が提供されるよう、入居者様の情報を提供している。入院中はMSWIに定期的な連絡をとり、状態の把握につとめ早期退院に向け相談を行うなどをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化・終末期についての意向をご本人、ご家族から伺っている。また、実際に重度化・終末期が近づいた時には医師、看護師からご家族に説明をし、今後の方針を共有して、より良い支援が行われるようご家族の協力も得ながらチームで支えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練や社内研修を行っている。マニュアルもあるが、急変や応急手当については、全ての職員が実践できるまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災・避難訓練を実施している。また、災害に備えて非常食、発電機、水などを備蓄している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳の遠い方の場合、聞こえる側から話しかけたり、大きくゆっくりした口調で話しています。意思を伝えられない方の場合、アイコンタクトをしたり仕草や表情から読みとるようにしています。排泄介助時に見守りの必要がある場合、ひざ掛けを使用し恥ずかしさのないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を、常に会話の中から見逃すことのないように良く傾聴するようにしている。申し送りや連絡ノートを活用し情報共有することでブレのない支援が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切らず、一人ひとりのペースを尊重して過ごして頂くことを大事にしている。散歩や買い物も希望者には同行していた(コロナ禍のため現在は出来ない)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れや、重ね着しすぎたり、前後が逆に来ている場合などはすぐに対応して身だしなみを大切にしている。髭剃り、ヘアカットはスタッフがを行い、その人らしい髪型となるよう配慮している。訪問美容も希望者は受けることが出来る(コロナ禍のため現在は出来ない)。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	マツシタ食品(配食サービス)の栄養士がメニューを作成していることで、バランスや量も大変良く、入居者様に好評である。片付けは毎回スタッフが洗ったものを入居者様が拭いてくださり、やりがいを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作ることでカロリー・バランスなど今までよりも良くなった。お粥・刻み食・ミキサー食など各自の状態に合わせて提供している。食事量や水分量は後日確認できるように、日々記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施している。歯間ブラシ・清浄スポンジ等を使い仕上げ介助をしている入居者様もいる。口腔ケアチェック表を活用したり義歯のある方は每晚お預かりして洗浄剤を用い清潔保持に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考にトイレ誘導をしています。入居者様8人が介助を必要としており、オムツやリハビリパンツを使用しています。夜間は眠りセンサーやベッド下にセンサーを置いており、自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録や申し送りを元に、便秘にならないよう水分補給や食事の工夫に取り組んでいる。また、便秘がちな方には下剤の使用やトイレ介助時は腹部マッサージを行うなど便秘の緩和に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、午前と午後に入浴時間を設けている。浴槽に入るのを嫌う方もいるので浴室内暖房を使い、シャワーでも体が冷えないようにしている。入浴が好きな方には入浴剤を入れ楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度を各自の好みに合わせ、快適に安眠や休息をして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	謝薬のないように、毎回与薬者と確認者でWチェックを行ってから服薬介助をしている。また、月2回の定期往診後には往診表を見て薬の変更がないか確認をしたり連絡ノートに変更の記録がないか注意している。薬の目的や副作用などは薬情報シートがあり、各自確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が出来る範囲で家事手伝いをして頂いています。終わった後には「いつもありがとう」「助かりました」など感謝をお伝えし、やりがいや自信につながるよう心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩希望者には、スタッフの時間が取れれば周辺を一緒に歩いているが、現在コロナウイルス感染拡大のため遠方への外出や買い物は控えている。入居者様の重度化が進み、全体での外出は数年前から困難になっており、コロナ以前は行ける方たちだけで回数を分けて外出を行いました。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は管理者が保管しているが、入居者が買い物に出かけた時にはご本人の財布をお渡しして、希望に応じて支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと要望があれば、その都度電話をかけられるように取り次いでいます。手紙が友人から届く方もおり、読んで内容をお伝えしたり返事を発送する等をして、関係が継続するよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在、コロナ禍のため共用の空間の消毒を徹底している。リビングは余計なものを置かずフロアは転倒予防のため障害物を置かず導線の確保に努めている。リビングは季節に応じた壁飾りやテーブルに花を飾り、殺風景にならないよう居心地の良い空間を提供できるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルになるよう座席を考慮している。一人が好きな方は自室に戻り思い思いに過ごされている。仲の良い方同士は毎日居室を歩き来ておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活空間を入居後も継続できるよう、ご家族と相談しながら、思い入れのあるものや大切にしているものなど持ち込めるものはなるべく入居時に持ってきて頂き安心して暮らしを継続できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレはわかるように表示があり、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置してあり、残存能力を活かし、出来ることはなるべく自身でしてもらっている。実際に入居前より出来るようになった方もいる。各ベッドにはモニターがついており、入床の状態を見守ることで安全の確保に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと